

平成27年7月16日に厚生委員会を開催し、所管する事務事業の調査を次のとおり行いました。

● 吉備線整備方針の検討経過について ●

～内容～

学識経験者や各種団体の役員、市民代表等で組織する「総社市吉備線整備方針等検討委員会」の第1回の会議が3月26日に開催され、7月7日には第2回の会議が開催された。この検討委員会において、委員から意見聴取が行われたところで、当該会議での説明内容、検討経過について調査するもの。

～質疑～

問：検討委員会の委員で詳細に検討をしているが、議会としてはどこまで言えるのか、どういう立ち位置なのか、示されたい。

答：吉備線整備方針等検討委員会では、学識経験者、各種団体、市民の代表者でそれぞれ意見を出し、最終的には、委員会としての意向をまとめて市長に報告することになる。議会には、その都度、報告をする。また、吉備線整備方針等に対して議会からの意見もお聞きしたい。

問：基本計画素案での乗車数は、服部駅、東総社駅で、平成24年度は1,588名となっているが、総社駅からの乗車数はどうか。

答：数字は、JR西日本からの資料である。総社駅と岡山駅は載っていないが、総社駅では改札を通った者が伯備線に乗る場合と吉備線に乗る場合があり、岡山駅では様々な路線へ乗るということで、選別ができないが、JR西日本からは、JR吉備線全体では、おおむね1日に1万500人が乗っているという報告を受けている。

問：総社市・岡山市の出費割合等、お金の話をしていくことになるが、一番重要なのが数字である。財政的な持ち出し、国の補助が幾らか、市の持ち出しが幾ら、そのような話をやっていかないといけない。見込みの数値、運営に係る経費など、きちんとした数値を表に出していかないと判断もできないかどうか。

答：乗客数は、現状維持を目指していく。需要予測は、富山ライトレールの例がそのまま当てはまるとは考えていない。全域が市街化区域である例と、一部が市街化区域である例などから、需要予測が2.1倍だとか3.5倍だとか、そのように考えているものではなく、厳しい視点をもって、話をしている。いろいろなケースを想定して、データを精査してやりたいと思っている。それに伴い、運営経費の話になる。経常赤字になるのかどうか。経常赤字になったときに、岡山市、総社市でその経常赤字を払ってでもやるのかどうか、現在検証しているところである。需要見込みが出てこない、運営経費が判断できない。この秋に経費の負担割合とかその辺りをお示しできればと

思っている。

問：検討に当たって、岡山市と総社市との温度差は感じられるか。

答：岡山市はこのLRT化に加えて駅前の路面電車であるとか、軌道敷、鉄道敷とかの問題も持っている。そちらも進めながらのLRTでもある。本市と一緒に考える部分と岡山市が独自で考える部分があるので、一様に同じ温度とは言えないと思う。

問：この議論の中で本市がLRT化の議論から撤退するという方向になったときに、その後のことは考えの中にあるのか。

答：今現在は、やるとしたらどうか、という前提で議論している。この計画内容がどのようなものになっていくか精度を高めていっている段階であるので、本市だけがやめるとしたら「岡山市さんはどうする」とか、「JRさんはどうなる」とか、そういう意見は出していない。

問：需要予測や負担金の計算などはいつ出てくるのか。それを基にして議論をしていかないといけない。スケジュールは早期に分かった方が良いがどうか。

答：目標としては、秋にこの素案に載せていけるよう、3者で話し合っているところである。順調に話が進めば、秋にはそういった話ができるかと思っている。

問：整備経費と負担割合について、負担割合を決めるのは非常に難しい。例えば吉備線が約20kmで、総社市分が約6kmであるが、距離の割合で考えるのか。もしくは、例えば岡山駅から三門までは高架にして電化にする整備費も含まれると考えると単純にキロ数で割るというわけにもいかない。その辺りは岡山市がお金を掛けるわけである。どういう割合で考えていくのがベストなのか。

答：延長割、人口割、利用者割などが考えられる。また、市域別割（総社市域分の整備費、岡山市域分の整備費をそれぞれが持つ計算方法）も考えられる。色々な負担割合があると思う。本市としての意見は主張していきたいと思っている。

問：農地の利用について、岡山県南部国営かんがい排水事業、受益地の件は、県とどのように話をしているのか。これによってLRTの利用者が増えるか、現状維持なのか、大きく関わってくる問題ではないかと思うがどうか。

答：土地の規制については、国営かん排の受益地もあり。また、農振農用地も存在している。そうしたこともあわせて、県大周辺のまちづくりということで、今、国、県の方へは協議を行っている。まだ、最終的な結論には、時間が掛かるが、本市としては県大周辺のまちづくりに力を入れていきたい。

● 平成 27 年度街路灯整備事業について ●

～内容～

夜間照明計画により整備計画を立てている地区防犯灯・街路照明・都市アメニティー照明のうち、今年度で整備を予定している街路照明について調査するもの。

～質疑～

問：街並みを考えるのであれば、このデザインでなくてもよいのではないか。本市の玄関口を駅から素晴らしいものにしていこうとか、電柱等も地中埋設に変えていって雰囲気のある街並みにしていこうというのであればいいのかとは思いますが、計画もないのに、単にこのようなデザインでと言われても、必要性が感じられない。もしも水銀灯の照明にしたならどのくらい掛かるのか。デザイン性のない通常のLEDにした場合の比較はどうか。

答：街並みのデザイン自体を変えていくという計画はやっていないが、今年度については、総社らしいデザインの街路灯にするということをお願いをしてきたところである。デザインについては、担当部署で協議してこのデザインにした。街路灯を総社駅から市役所通りへ設置しようとするものである。

照明機器の金額は、1基当たり約34～35万円である。既存の水銀灯の単価は分からないが、電気代は既存の水銀灯が250Wで、1基当たり月に1,600円ほどかかっている。これを、今度更新を考えているLEDの電灯では、おおむね1基当たり480円、電柱1塔につき2基つけても1,000円程度で、今までより安くなる。

問：街路照明は、将来的なイメージを持ってやっているのか。商店街にも照明計画の話があったが、今度はこの駅前の都市計画の道になっている。街並みに関するデザインを考えているのか。

答：平成27年度には、総社駅からきび皮膚科形成外科クリニックまで、平成28年度には、きび皮膚科形成外科クリニック交差点からトマト銀行交差点まで整備する予定である。平成29年度以降は、現時点未定であるが、中央文化筋の辺り、市役所から東側の部分、あるいは商店街といった辺りを考えている。

問：ネズミのデザインに統一感を持った方が良い。総社のシンボルがネズミというならネズミのシンボリックなものを作った方が良いがどうか。

答：一目で見て、これは総社市だというのが分かるようなシンボリックなものにしていければよいと思う。

問：夜間照明計画を1,500万円で3年間行っていて、来年度までで区切りが付く。将来のことをきっちり踏まえて、やってほしいがどうか。

答：これから先も、デザイン性のある街路灯や防犯灯の整備を継続してやっていきたい。